

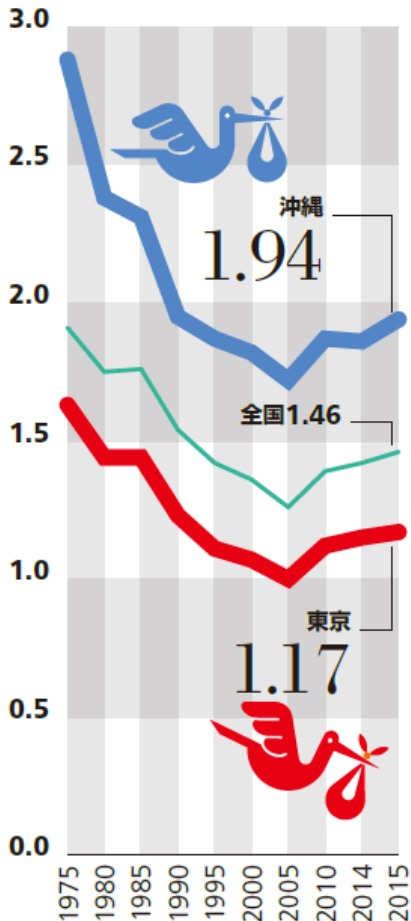
研究員の眼

都道府県別出生率が浮き彫りにする日本の課題

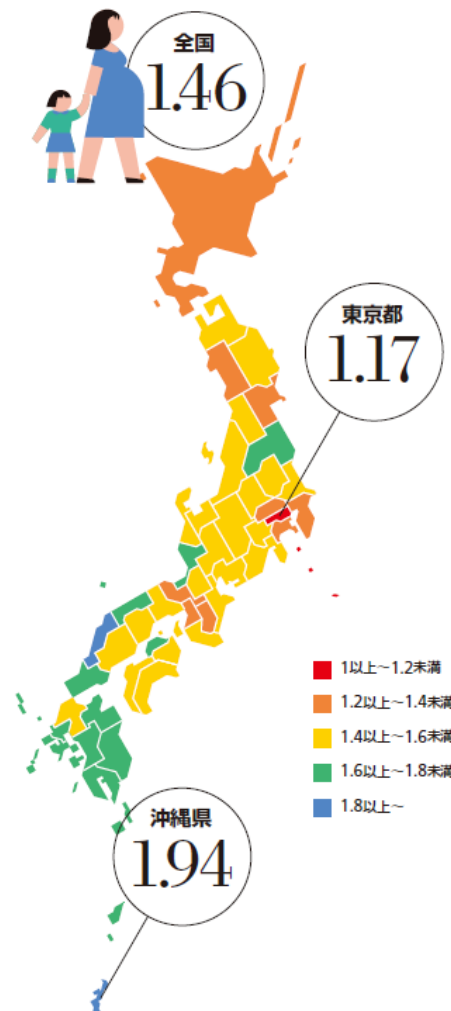
少子化社会データ解説：子育てに本当に「やさしい（易・simple & 優・healthy）」解決策とは。

生活研究部 研究員 天野 馨南子
 (03)3512-1812 amano@nli-research.co.jp

東京と沖縄の出生率推移



都道府県別出生率



1970年代以降、沖縄が日本の合計特殊出生率（TFR）の首位を独走しています。

2015年のTFRを見ると、沖縄は1.94、70年代後半から最下位が続いている東京は1.17です。全国平均の1.46は沖縄よりも東京のTFR値に近く、東京の状況により強く影響されていることがわかります。

沢山の子どもを育てようとするれば、より広い空間が必要になります。

1人あたりの空間が狭い大都市への人口集中が続いていることは、少子化が進む日本において大きな問題といえましょう。

過密都市に対応した局所的少子化対策も必要ではありますが、先進諸国の中でもひととき目立つ「人口一極集中化問題」解消の視点からの少子化対策なくしては、TFRの上昇は極めて難しいと思われます。

資料) 国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」| 厚生労働省「人口動態統計」